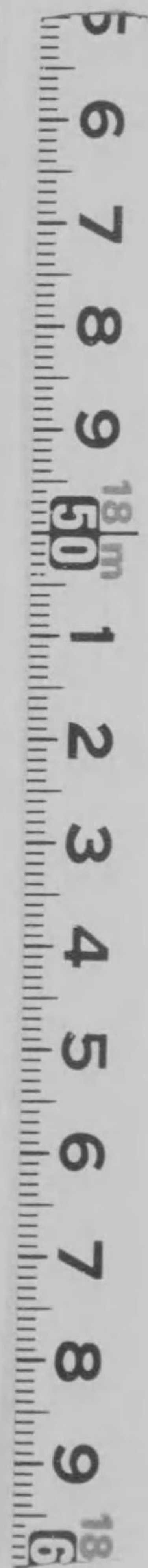


393

249

大正島天山祇神社



始



大三島と大山祇神社



393-249



はしがき

大三島は世界三景の一たる我瀬戸内海の中央に位置して風光明媚
實に天造の粹といふべく、更らに加ふるに大日本総鎮守大山祇神社
の御鎮座地として、歴史的にも特異の光彩を放つてゐる。

大山祇神社の祭神は、畏くも我皇室の外祖父神にましく、
り皇室の御崇敬極めて深く、社地及建設物は往昔の儘の俵を存
一度大鳥居を潜れば自から襟を正さざるを得ない。

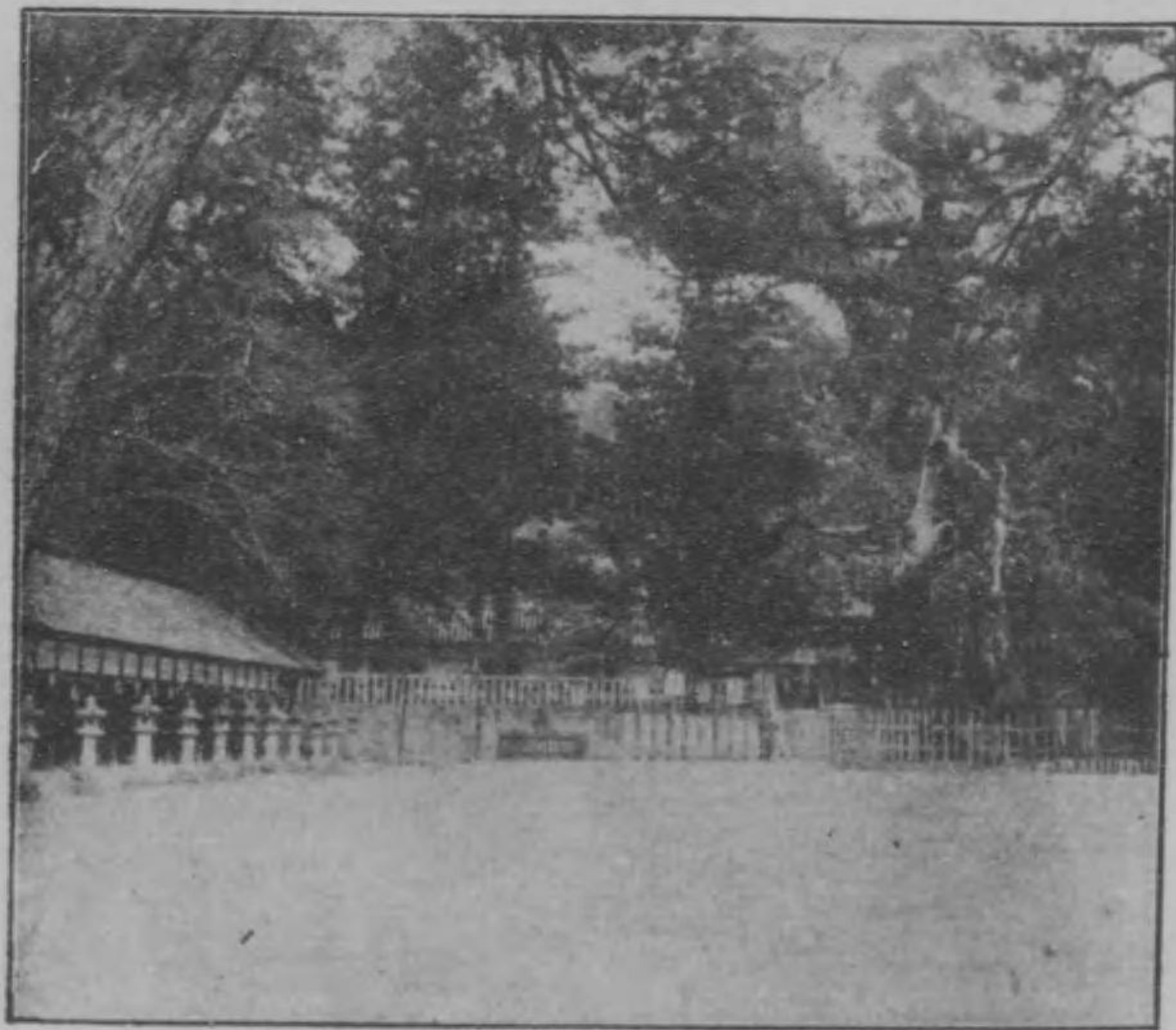
大三島は彼の有名なる三島水軍の根據地であつたので、附近
史蹟に富み、探るべき名勝も尠くない。

未だ大三嶋を知らず、大山祇神社に参拜せざる人々のために、其
概要を記して以て大三島詣での榮とするのみ。

大正十年初秋

著者しるす

大正十年八月
10 10 8
内交



(下) 楠大の内境 (上) 殿本社神祇山大

— 次 目 —

緒言	一
大三島の位置	二
大山祇神社の御由緒	五
御鎮座と御神徳	六
歴史に残る祈願と靈驗	八
三島水軍と大山祇神社	九
社殿と社領の變遷	一二
東宮殿下の御参拜	一五
國寶と寶物の數々	一七
大山祇神社の祭日	二〇
大三島六景	二二
名勝と禊蹟	二五
宮浦港漁船發着時間表	二六

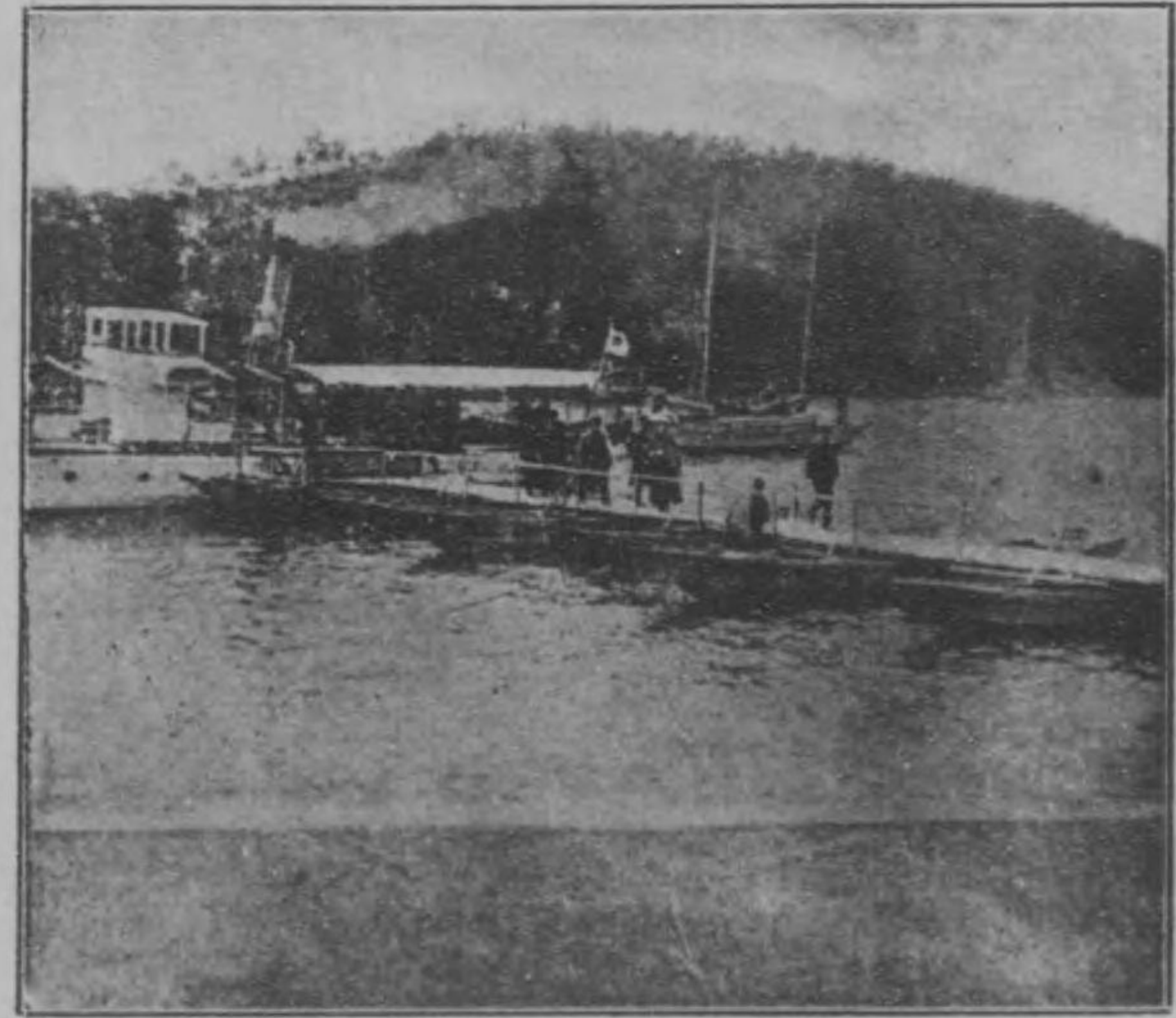
大三島と大山祇神社

緒言

伊豫の松山を知らぬ人はあつても、伊豫の大三島を知らぬ人は、恐らくあるまい……といふほどに、大三島は廣く世に知られてゐる。

大三島は何故そんなに廣く世の中に知られてゐるのであらうか、松山は賤ヶ嶽七本鎗の一人加藤孫六嘉明の築いた美しい城のあるところ、道後といふ最も古い歴史をもつた温泉のあるところとして外國にまで名を知られてゐる。その松山に

もまして名の高い大三島は、抑も何の故に、夫れほど廣く名を知られてゐるのであらうか……。



(下) 港浦宮と (上) 筆震帝武文 額勅

世界の海上公園として内外人の嘆賞措かざる瀬戸内海の風光が、愈よ眞價を發揮して、島と水との美が備つてゐる越智群島の、恰も基石を振り撒いたやうに、若しくは泉水の飛石のやうに、碁布した多島海の中心ともいふべき最大島であるがためであらうか。夫れども又、煙害で天下の耳目を聳たしめた四坂島の、その煙害區域に數へられてゐるがためであらうか、否々、決して然うではない。大三島は實に我日本總鎮守大山祇神社の鎮座ましますことによりて、爾く天下に名を知られてゐるのである。

さらば其、大三島と大山祇神社の概要を記述して、大三島詣の手引をしやう。

大三島の位置

四國のマンチエスターとして、關西有數の工業地として、純白無比の伊豫ネル

の産地として有名な今治の沖合に、大小三十幾つの島がある。それは愛媛縣越智郡の群島で、瀬戸内海の風光が最も繊細の美を發揮してゐるところ、其越智群島中の最も大きい、そして其中央に位置してゐるのが我大三島である。

南は伯方島、大島を距て、今治市と相對し、北は廣島縣に面して忠海港と指呼の間にある大三島は、周廻十四里三十一町、五ヶ村十三部落に分れて人口三万を擁抱してゐる。その島の中央に巍然として聳ゆる神野山は、大三島を表象するものであると同時に、大三島が三島群島——越智群島——の盟主であることを象徴するものである。

岡山、瀬戸崎、盛口、鏡、宮浦の五ヶ村を抱括する大三島の首邑は、大山祇神社の鎮座地たる宮浦であつて、西に大崎上島といふ自然の防波堤を控へ、道明の

鼻から深く灣入した宮浦港は、殆んど風波の難といふことを知らぬ。その宮浦港を上陸すると都會らしい一筋の町がある。これが宮浦の新地町で、大山祇神社の鳥居際まで百幾十軒かの商家が兩側に軒を並べ、首邑らしい氣分を見せてゐる。宮浦は大三島五ヶ村の首邑である。ばかりでなく三島群島の首邑である。従つて郵便局もあれば登記所もあり、警部補派出所もあれば旅館その他の町としての設備も一通り整ふてゐる。

その一筋町を突きつめると、國幣大社大山祇神社の大鳥居前に出る。宮浦は即ち大山祇神社によつて作られ、護られてゐる町であつて、往古は三島大明神の御鎮座地であるがために大御島と崇めたのが、何時とはなしに現在の如く大三島と轉化したものであると傳へられてゐる。

大山祇神社の御由緒

大山祇神社は、古來俗に三島大明神とも大三島神社とも三島宮とも唱へられてゐる。御祭神は御一座であつて伊弉諾尊の御子、大山津見大神に在し、天孫邇々藝命の皇后たる木花咲耶姫命の御父神に當らせられ、日子火々出見命の外祖父にまします。然れば我建國の當初に於て、皇室第一の皇家として万世一系の皇基を樹てさせ給ふた御偉業の上に、御功績の極めて偉大であつたことは更めて言ふまでもなく、代々の朝廷の御崇敬の厚かつたことも之れが爲めであつて、稱徳天皇（紀元一四二六）の御代には神位神戸を授けられ、仁明天皇の御代には名神に預り宮社に列し、延喜の制には名神大社として臨時祭に預つて、伊豫國一宮に定められた。殊に當時の踐祚大嘗祭には京畿七道五十四社の諸神と共に、一代一度の幣

帛が献せられたもので、四國では大山祇神社と一社あるのみである。これに依つて見ても、如何に皇室の御崇敬が厚かつたかといふ事を察し得らるのである。斯うした由緒の正しい、皇室と御關係の深い神であるから、明治維新の改革と共に明治四年四月、國幣中社に列せられ、大正四年十月更に國幣大社に昇格あらせられたのである。

御鎮座と御神徳

大山祇神社御由緒記に「延喜式に大山積神社一座とあり御鎮座は仁徳天皇の朝とあり云々」とあるが如く、三島明神の御鎮座は極めて古いものであつて、大三島御鎮座の最切は、崇峻天皇の二年(紀元一二四九)瀬戸崎村(古くは瀬戸の浦と

云ふ)字嶮岫殿の地であつたが、文武天皇の大寶元年(紀元一二六二)に越智の大領越智直玉澄が、現在の宮浦村に奉遷したものであつて、舊地嶮岫殿には郷社瀬戸八幡神社の末社として横殿神社を奉祀し、大山祇神社の御神徳を永久に紀念してゐる。

越智直玉澄が瀬戸の浦から現在の宮浦へ奉遷したのは、御神徳の極めて鴻大にましますため、社殿の壯嚴と参拜者の便を圖つたものであらうが、古來世人が如何に大山祇神社を崇信したかといふことは建國の祖神であると同時に和多志の神(航海の神)御鉾神(武徳の神)大水神(水利の神)大里神(農業の神)山神(山林の神)酒解神(造酒の神)など幾多の御名を以て崇めまつつてゐたことに徴して知ることが出来るのである。

殊に農業守護の神として農業者の崇敬深く、毎年五月以降九月末まで、田植の済んだ頃から農家の人々は、其年の五穀の豊稔を祈るため陸績として参拜し、そして神代の往古から消ゆることなき神燈を戴いて歸る。この神燈の火を田畑にふると害虫を除くことが出来るといふので。縣下は勿論近縣各地から「虫除けの神火」頂戴に来る者が夥しい。

歴史に残る祈願と靈験

今を去ること一千二百五十年の昔、齊明天皇が親ら朝鮮百濟國を救ひ給はんとして西征の途に就かせられた其の途中、長命富貴の神鏡を献じて勅願あらせられたのを始めとし、弘安四年の元寇の役に有名な河野通有が大山祇神社に参籠し

て、蒙古退治の祈願文五十枚を書き、夫れを焼いて灰となし自ら嚙んで燃ゆるが如き信念の下に、三島水軍を率ひて夷賊十万、八千艘の敵船に向ひ、其の大將を捕虜として敵軍の膽を奪ふたことなどは、能く人のよく知る所である。

南北朝の戦に護良親王が兵庫鎮の太刀一口を奉獻して戦勝を祈願し、白河天皇の朝、伊豫の守護職源範國朝臣が能因法師をして大山祇神社に雨乞を祈願せしめて、神威大に顯はれたるが如き、赫灼たる神徳は炳として史上に輝き、數へ来れば枚擧に遑がないのである。當時能因法師が伏し拜みて祈り申しける歌に
天の川苗代水にせき降せ天降ります神ならば神

三島水軍と大山祇神社

日本の地圖を展いて瀬戸内海の地勢を按すれば、大小幾百の島々が星羅棋布して一大パノラマが、眼前に展開せられて來るのである。此の多島海と水軍と、大山祇の大神との關係は何うである？……。

海の面積は陸地の面積の二倍大を占めてゐる、従つて地球を支配するものは先づ海に依らなければならぬ。其の海は船、船は人、海と船と人によりて文化は發達するのである。往古から現今に至るまで海の發達が其國の歴史の、主要部分を占めてゐることは争へぬ事實である。

遠くは天孫の天の岩舟、神武東征の舟師、神功皇后の三韓征伐、鎌倉幕府の元寇、豊臣秀吉の朝鮮征伐、かく數へ來ると海と舟、水路と航海、即ち海軍の力に依らなければならぬことが首肯されやう。而して源平の戦に平家の一門が、一の

谷に敗れ、壇の浦に亡びた時にも、足利尊氏が西國から再舉を計つて湊川に攻め寄せた時にも、孰れも此の瀬戸内海を根據として發達した水軍、三島水軍を敵とし味方として軍の勝敗と運命が定まつた事も、否定することに出來まい。

大山祇の大神は素、薩摩の國吾田の郷にましくて、天孫の日向御降臨と共に皇國創始の大業に參畫し給ひ、天孫の外戚として九州一圓の開拓に従事し、續いて神武東征の際には、其族は皇帥に従ひ中國、近畿御征服の後には専ら四國に皇業の基を築かれた。越智族(河野氏の祖)は即ち大山祇神の族であつて、其の末裔河野氏が日本水軍の覇者であつた事や、瀬戸内海——殊に三島群島が、日本海軍の發祥地であることなどを思ふと、大山祇神社と海軍といふ事に、興味ある因縁を認め得るのである。

然れば源平時代から此のかた、南北朝の戦にも敵と味方の別なく、水軍の祖神として大山祇神社に養ひ、貴重なる武器、武具その他を奉獻して神靈の加護を祈り、而して三島水軍の援助を求めたものである。即ち瀬戸内海は地理的にも、歴史的にも、我國海軍の發祥地として幾多の面白い歴史を物語つてゐるのである。そして夫れが悉く大山祇神社と密接な關係をもつてゐるのである。

三島水軍と大山祇神社、大山祇神社と海上の權力、探ぐれば探るほど深く廣く興の盡くるところがない……。

社殿と社領の變遷

大山祇神社は越智氏、河野氏とは最も縁故が深いので、此等の諸氏は氏神とし

て常に崇敬し、彼の元寇の亂に於て河野通有が大功を樹て、優勝を得たのも大山祇神社の御威徳によるものであり、又、河野氏の率ゆる三嶋水軍が、當時最も有執であつて瀬戸内海の海上權を掌握して、其根據地を大三嶋に置いたのも畢竟大山祇神社の御加護を得るがためであつた、故に大三嶋は帝國海軍の發祥地といつても宜いのである、然れば河野家時代に於ける大山祇神社の御威徳は洪大で、社殿の如きも壯嚴を極めてゐた。

越智直玉澄が宮浦に奉遷後、後醍醐天皇の元享二年(紀元一九八二)正月、兵燹に罹つたので、時の將軍足利義満が國中造營米を以て再建を命じ、後龜山天皇の天授四年(紀元二〇三八)に造營されたもので、現に特別保護建造物となつてゐる本殿はソレである。

往古の社域は四町乃至九町と稱されてゐるも、其實現今の宮浦村は天正十三年まで悉く社地であつて、民家といふものは一戸も無かつたのである。當時社殿の建築物は七十餘社、二十四坊あつたのであるが、時と共に變遷して天正以後は四坊となり、社領も鎌倉時代に於ては封戸田三十八町、日御料田三十六町、庄園名田及び三嶋七嶋の社領があつたが、天正十三年河野家滅亡と共に沒收されて、社殿も著しく廢頽するに至つた。降つて徳川時代から明治維新の際までは社領百石を領し、大三嶋は神地として特別の取扱を受けてゐた。

現在の境内面積は十二町八反歩餘で、神門の前に老楠古杉鬱蒼として枝を交へ背後の神野山の緑と相擁して、思はず襟を正さしめる森嚴さ、往古の殷盛なりし梯を偲ぶことが出来るのである。

大山祇神社所藏の古圖によれば、往昔は現在の大鳥居まで海潮が打寄せてゐて伊豫路行く大山つみは三嶋江の秋しもなごか鳥をどるらん

と古歌に詠せられてある有名な三嶋江をなしたものであるが、社領沒收後、民家移住の結果次第に埋没したのを、安永六年松山の薬屋五兵衛が時の藩主久松定靜に建議して埋立たものである。

東宮殿下の御參拜

大山祇神社が武神として、武家の崇敬厚かりしことは、神庫内に藏せられてある寶物の大部分が悉く武器であつて、其數實に五百餘點に上り、中百十一點は國寶に編入せられてゐることは、誰人も驚嘆惜かざる所であつて、就中甲冑の如

きは本朝最古の物より各年代に順して所藏されてゐる。此等多数の武器は總て當代の武將が、武運の長久を祈つて奉納したもので、我國武器の研究には是非とも大山祇神社の寶物に據らねばならぬといふので、近時斯道の大家研究家の參拜する者が甚だ多い。殊に明治四十二年故伊藤博文(河野氏の裔)が參拜されて以來大三嶋の名は益々高く世に知られて、貴顯大官の參拜も多く、又海軍では武神として且つ航海守護の神として崇信し、兵學校の如きは毎夏新入生徒の參拜を年中行事の一としてゐる。

大正七年四月二日に北白川宮成久王殿下が御參拜になつて、御手植の紀念樹が境内を飾つてゐる。また大正九年十一月十七日には畏くも東宮殿下には九州に於ける陸軍特別大演習に行啓の御歸途、軍艦球磨を大三嶋に寄せ給ひ、御參拜の

上大幣帛を献しさせ給ふた。その砌り本縣に於て臨時に作り參らせられた御休憩所は本殿の北側に保存されてあり。尙攝社下津社の大前に月桂樹を御手植へ遊ばされたが、枝葉いよゝゝ茂つてゐる。

國寶と寶物の數々

大山祇神社には百十一點の國寶を始め、武器、古器、古錢、古文書、經文等千數百點の寶物があつて、孰れも當代の珍品である。されば神社に於ては此の數多き寶物の保存に意を用ゆると共に、拜觀者の觀覽に便するため目下寶物館建設の計畫中である。參拜者は社務所に申出て是非とも一度は拜觀てし置くべきである。左に寶物の主なるものを示すことにする。

允張掛 一個 文庫 二個 一直垂 一個 領幣 一個 右の外古文書經文古錢等百枚拾點あり

大山祇神社の祭日

大山祇神社の祭禮には大祭、中祭、小祭、臨時祭の四つがあつて、各祭禮日とも参拜者踵を接するの有様であるが、就中四月二十二日の大祭と六月五日、九月廿三日及十月九日の中祭とは最も盛大で、宮浦の海は一面参詣人を運送する船で埋められ、海岸から神社の境内は勿論、東に榎坂の險を越へて盛口村井口の海岸に連る一帯の地は、全く錐を立つる餘地なきまでに参拜人で満される。殊に三度の中祭の神輿渡御の日は大三島全島各村から、獅子や奴などの供奉が出て其の行

列三拾丁の長さに達するのである。されば祭りの當日は各地から臨時汽船の航海するものも多く、大三島五ヶ村は全くお祭り氣分に浸されて了ふのである。左に定時祭日を示すことにする。

一、大祭 祈年祭二月十七日 例祭四月廿二日 新嘗祭十一月廿三日
一、中祭 歳旦歳一月一日 元始祭一月三日 生土祭一月七日

紀元節祭二月十一日 御田植祭(神幸)六月五日 天長節祭八月
卅一日 氏祭(神幸)九月廿二日 新穀祭(神幸)十月九日 御更衣祭十一月廿二日

一、小祭 月旦祭毎月一日 月次祭毎月廿二日 山口祭四月十五日、十一月十五日 除夜祭十二月卅一日
式部大輔資業が伊豫守に侍りける時、彼國の三島明神に東遊して奉りけるを

詠みて……と題して歌ふて曰く

神代より船路まもらす大三島神の御稜威そ尊かりける

往き來するたひに船路の安かれと三島の沖にぬさたむける

大三島六景

瀬戸内海が世界の海上公園であり、その内海の美が愈よ織麗細緻の技巧を發揮したところが三嶋群嶋であるからは、三嶋群嶋それ自身の總てが景勝であることは勿論であるが、茲には更に細分して大三島六景を選んで見やう。

三島の櫻花 大山祇神社の境内に在る櫻樹は、潮風の當る海岸には珍らしい見事なもので、陽春三月、百花蕾を破つた時の眺めは美しさ云はんかたもない。地

方人は唯一の花見どころとして、春の幾日かを此所に集つて觀賞する。歌に曰く

入日の瀧 宮浦から南十五丁、大字臺の流川の upstream にある。一名を臺の瀧と呼

んで巨岩峭壁をなしたる上から、二條の白練落下せり、右なるが雌瀧であつて雄瀧よりも稍や水少く。如何に早魃の年でも此瀧の水だけは未だ曾て涸れたことがないといふ、何だか大山祇神社に關係のある神秘的な傳説でもありさうに思はれる。歌に曰く

夏しらぬうてなの瀧の名もしるくのぼるいなねたに風そすゞしき

鏡浦の明月 宮浦灣の北岸、鏡村の一角で、穏かな波の上に冴切つた空から、白い月が影を落した眺めはまた格別である。宮浦から僅に十丁たらず。歌に曰く

波たゝすかけあなしけき月より宇らは鏡の名をみかくらむ

神野山の雪 大山祇神社の裏山で、大三島第一の高山である。山頂の眺望の佳

なるは言ふまでもなく、降り積む雪に山全体が白衣を纏ふて、間々聳へ立つ老松

古杉が雪の笠の下から緑の色を覗かせてゐる風情は得も云はれぬ。歌に曰く

冬支傳はそらよりかくる白ゆふをかみの、山の雪にこそみれ

上島の晴嵐 宮浦から東北約五十丁、盛口村及瀬戸崎より見渡すと伯方島、岩

城島より遠く生口、因島の海峡を彩る紫の島々と真帆片帆の點々たるさま海の

美を此處に遺憾なく展開して居る。歌に曰く。

鹽くもりあらしにはるゝかみ島のこしゝなかけそ波もへたてぬ

泊磯の客船 大山祇神社より西南方、安鎮山の麓にあつたものであるが、今で

は埋立てられて水田と化してゐる。歌に曰く。

真帆片帆沖にみへしもくれゆけはとまりのいそによるのとも船

以上の六歌は日野大納言資技卿の詠である。

名所と舊蹟

大山祇神社の背後を圍む神野山は大三島隨一の高山で、麓から凡そ二十丁ばかり登ると山嶺に達する。遠近の眺望絶佳にして藝備豫讃四ヶ國の嶋々は、殆ど一眸の内になめ得べく、瀬戸内海風光の粹を一所に集めたかの感がある。参拜者は須らく登山して瀬戸内海の風光の、如何に美なるかを展望すべきである。山を下り入日の瀧を覗、又一遍上人の建立なりといふ古色蒼然たる寶鏡塔、寶劔塔、寶玉塔

を見物することを忘れてはならぬ。一遍上人が修業の砌り大山祇神社に詣でて。西へ行く山の岩かどふみ見れば苔こそ道のさはりなりけり
と詠せしといふ其塔は、大山祇神社境内の南に接して存してゐる。
大三島名物の大楠は目通り四十七尺のものを初めとして、千年以上を経た老樹十數本あり、神門前の老楠は特に人目を惹く。尙大山祇神社境外の東方には、越智の大領玉澄の腰掛石などもあつて名所古跡が尠くない。

宮浦港汽船發着時間表

宮浦は大三島の首邑であり、大山祇神社の鎮座地であるので、旅客や参拜者の往來も頻繁であるがため、相生丸、横須賀丸、御島丸など數隻の汽船が毎日定期

航海をしてゐる。その發着時間は左の通りである。

相生丸	三津濱發	午後六時三十分	宮浦着	午前十時
横須賀丸	今治發	午後一時三十分	宮浦着	午後七時三十分
御島丸	尾道發	午後五時三十分	宮浦着	午後七時三十分

大正十年九月廿五日印刷
大正十年十月一日發行

愛媛縣越智郡宮浦村一番耕地三〇九番地

著作兼 發行所 赤尾政雄

松山市小唐人町二丁目六番地

印刷者 福島忠太郎

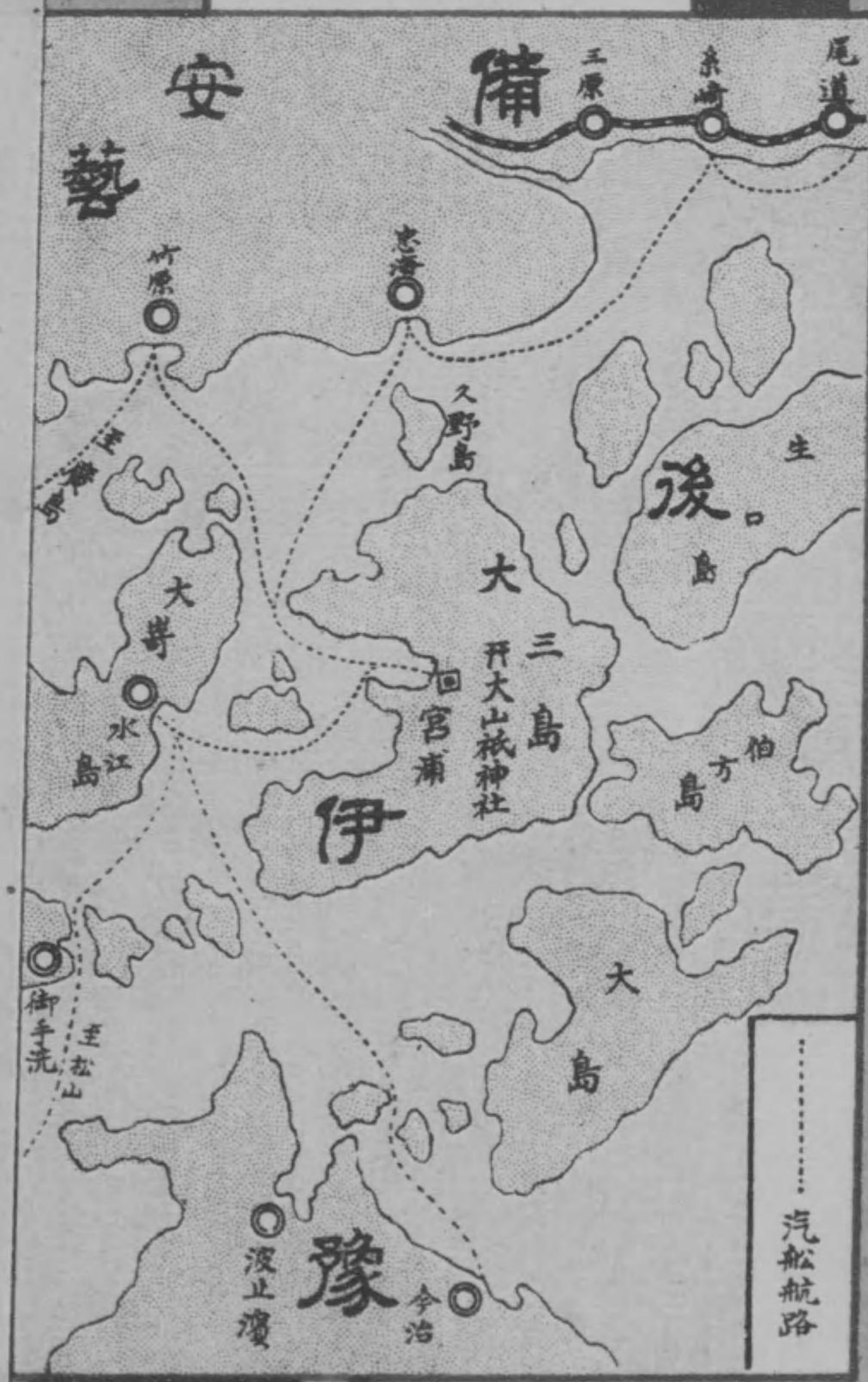
松山市小唐人町二丁目六番地

印刷所 福島印刷所

愛媛縣越智郡宮浦村一番耕地三〇〇番地

發行所 以文會

三大島位置圖



393
249

終

